

平成27年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－2号)

農林総合研究センター
平成27年5月28日調査

気象経過

1. 5月第4半旬の平均気温は、金沢、輪島ともに高かった。日照時間は金沢で少なく、輪島は平年並み、降水量は金沢でかなり多く、輪島は少なかった。
2. 第5半旬の平均気温は、金沢、輪島ともかなり高くなった。日照時間は金沢、輪島ともかなり多く、降水量は金沢、輪島ともかなり少なかった。
3. 5月28日に新潟地方気象台から発表された、向こう1か月の予報では、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ない見込みです。平均気温は、高い確率50%です。降水量は平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

生育概況等

【本田の生育】

- 1 葉齢は、コシヒカリが平年比91～114%（県平均104%：加賀：+0.2葉、能登：+0.2葉）、ゆめみづほが近年比103～110%（県平均107%：加賀：+0.5葉、能登：+0.4葉）となっている。
葉齢展開は、コシヒカリで平年に比べ1日程度早く、ゆめみづほで近年に比べ2～3日程度早い。
- 2 草丈は、コシヒカリが加賀地域で平年比93～105%（平均100%）、能登地域で平年比97～117%（平均103%）と平年並。
ゆめみづほは、加賀地域で近年比91～107%（平均100%）と平年並、能登地域で105～131%（平均119%）と近年よりやや長い。
- 3 茎数は、コシヒカリが加賀地域で平年比88～118%（平均107%）、能登地域で87～134%（平均109%）と概ね平年並で、前年に比べ多くなっている。
ゆめみづほは、加賀地域で近年比123～168%（平均143%）と近年、前年より多く、能登地域で近年比98～142%（平均119%）と近年に比べやや多く、前年に比べ多くなっている。

【病虫害の発生状況】

イネミズゾウムシの食害が見られる。

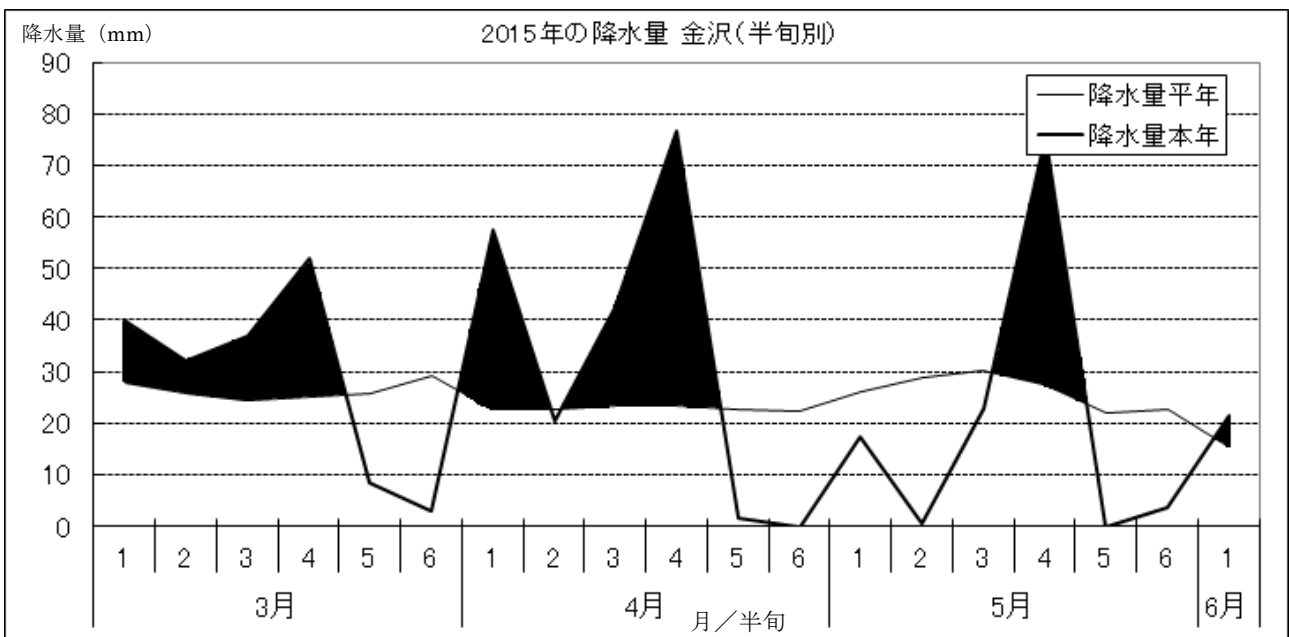
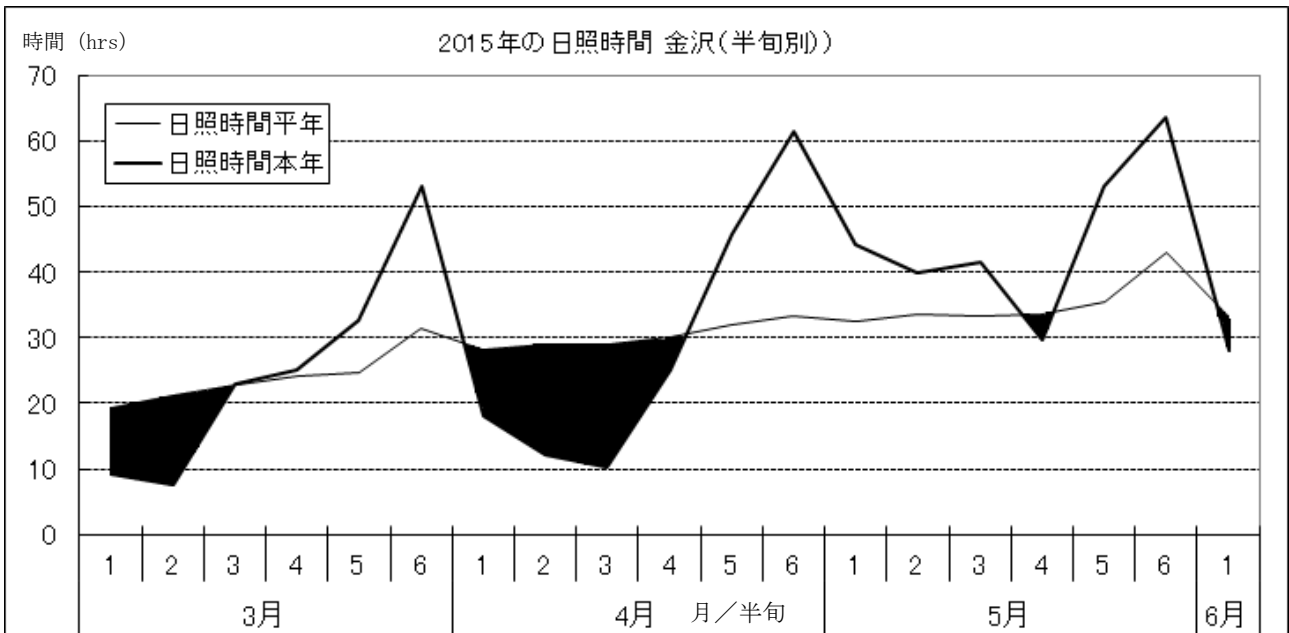
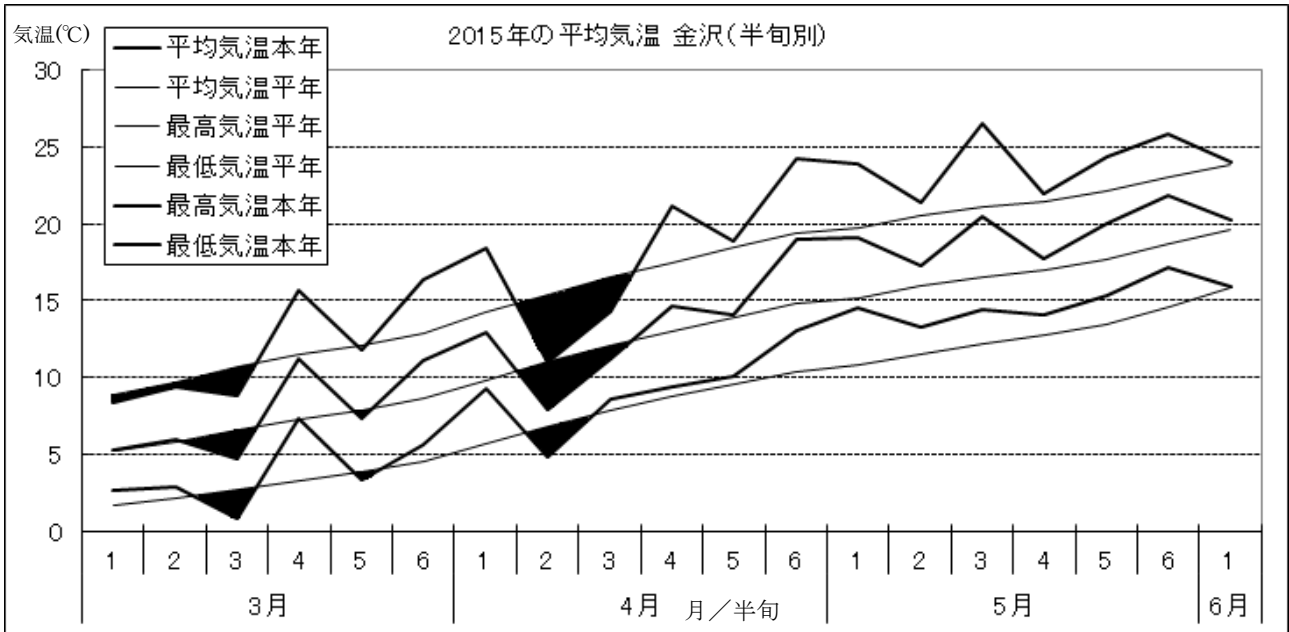
当面の対策

1. 湛水状態が続いているところでは土壌中の還元化が進んでいるので、直ちに1～2日程度の軽い田干しを実施し、根の活力を高めるとともに稲体の健全化を図る。
2. 中干し開始は、田植後1ヶ月を目安に行うが、茎数の増加が平年および前年よりも進んでおり、今後も気温の高い日が予想されていることから、生育の早い圃場で目標茎数（目標穂数の約70%、1株当たりコシヒカリ：13～15本、ゆめみづほ：15～17本）に達している場合は、田植後1ヶ月を待たずに直ちに開始する。
3. 中干しを確実に実施するため、溝切りを行うこと。

4. 本田に放置された補植苗は、本田のいもち病の伝染源となり早期多発を招くので、早急に取り除く。
5. 移植苗に箱施薬を行っていない圃場では、いもち病の防除適期を逸しないように予防粒剤を必ず散布する。散布時期の目安は田植時期にかかわらず下記のとおりである。

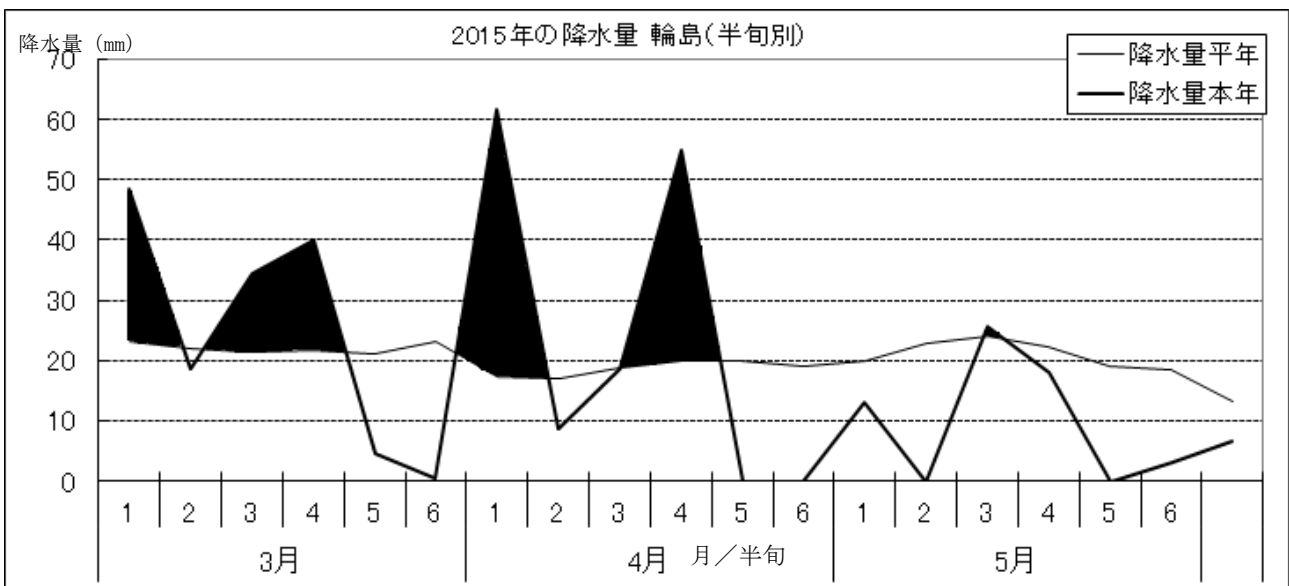
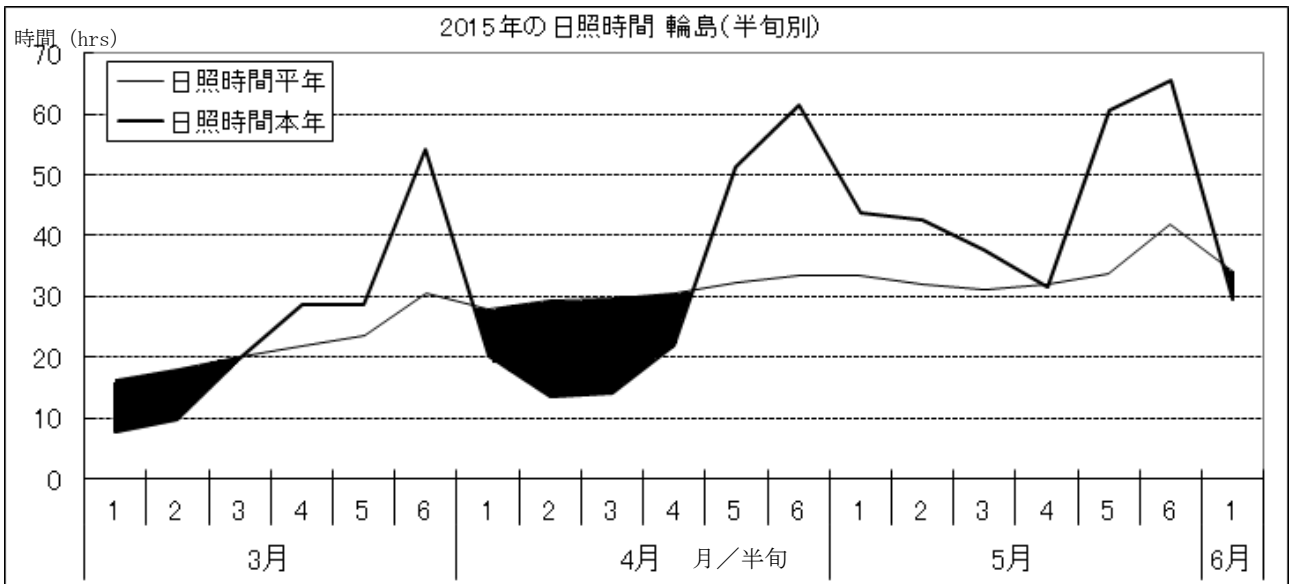
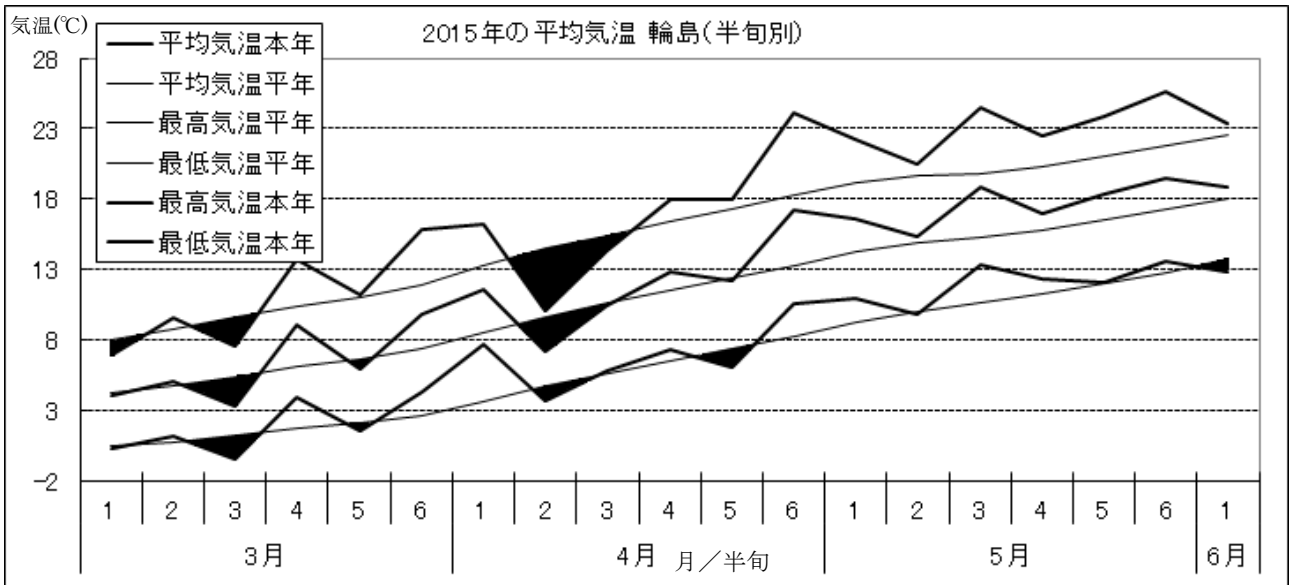
加賀平坦部：6月10～15日	加賀常発地：6月10日頃
能登平坦部：6月10～20日	能登常発地：6月10～15日
6. イネドロオイムシの防除（箱施薬）をしていない場合は、6月上旬に1株当たり1卵塊以上認められたら、直ちに防除を行なう。
7. イネミズゾウムシの防除（箱施薬）をしていない場合は、成虫が1株当たり0.3頭以上認められたら、湛水状態で粒剤を散布する。
8. 斑点米カメムシ類は、急激な増加も考えられることから生息場所となる農道、畦畔、休耕田及び遊休地等の雑草地の除草を徹底する。なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。

気象経過イメージ (金沢气象台)



※金沢气象台観測データを基に石川県農業試験場が作成
 ※平年値は過去30年間(昭和56年~平成22年)の平均値
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

気象経過イメージ（金沢気象台）



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成

※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値

※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い